

N 共に生きる豊かな 福祉社会のために Normalization



子ども、障害のある人、高齢者を柱に、朝日新聞厚生文化事業団は社会福祉事業に取り組んでいます。東日本大震災では救援募金を呼びかけ、両親を失った子どもに「こども応援金」を贈るなど、独自の救援事業に力を入れてきました。多くの皆様のご支援に厚く感謝を申し上げますとともに、さらなるお力添えをお願いいたします。

東日本大震災救援事業

東日本大震災(2011年3月11日)では、当事業団独自の救援事業を継続して実施しています。日ごろの福祉活動を生かし、子ども・障害のある人・高齢者に焦点を当てた以下の事業で、皆様から寄せられた震災救援事業への寄付を活用させていただいています。

■独自の救援事業

●こども応援金

津波などで両親を亡くした子どもに「応援金」(一人150万～300万円)を直接、贈り届けており、202人に計4億8850万円を渡すことができました(13年10月現在)。さらに周知の努力を続けています(こども応援金へのご寄付の受け付けは終了しました)。

●子どもへのグリーンケア

大切な人を失った悲しみや苦しみを整理して受け止め、自分らしく歩んでいくための支援を「グリーンケア」と呼びます。震災で大切な人を亡くした子どもを支援する拠点として、「子どもグリーンサポートステーション」を12年9月に仙台駅前に開設(同名のNPO法人が運営)。学習支援や遊びを通じてスタッフが子どもに寄り添う「子どもの集い」を定期的に開催、これまでに延べ250人が参加しました=写真左。保護者の相談や支援者の養成にも力を入れています。



「子どもたちのグリーンサポートを考える全国集会」を13年3月に仙台で、米国ハワイでグリーンケアを実践しているシンシア・ホワイトさん=写真右、作家の落合恵子さんらを講師にシンポジウムを6月に東京、大阪で開催しました。

また、こうした子どもたちのための「グリーンキャンプ」を日本キャンプ協会、日本YMCAと一緒に、12年3月から13年3月までに台湾、朝霧高原(静岡)、余島(香川)で実施しました。

●陸前高田に「朝日のあたる家」

津波により壊滅状態になった岩手県陸前高田市の米崎町に13年2月、「朝日のあたる家」=写真表紙下=を開設、地域の交流拠点として動き出しました。木造約240平方メートルで、四つのホールがあり、NPO「福祉フォーラム・東北」のスタッフ4人が運営。心と体の健康、認知症、介護などの相談室のほか、「認知症カフェ」(毎月第4木曜)やグリーンケアのための「子どもの集い」、ミニリサイクル=写真=など、さまざまな催しを開いています。



●被災地ビジット

被災地の仮設住宅や幼稚園・保育園、小中学校、障害のある人や高齢者の施設に、音楽家らと一緒に訪問し、楽しいひととき、安らぎの時間を過ごしていただく訪問事業を実施しています。11年秋からバイオリニストの川嶋成道さん、バイオリニストの千住真理子さんとピアニストの山洞智さん＝写真①、歌手のおおたか静流さんとピアニストでマジシャンの大友剛さん＝同②（表紙上も）、高砂部屋の力士＝同③＝らがこれまでに計65カ所を訪れました。



●岩手の障害のある人を支援

岩手県内で被災した障害のある人を中心に、地域で自立した生活が送れるように、障害のある当事者による支援活動を続けています。12年度は宮古市から陸前高田市までの150キロを障害のある人が歩きながら「復興計画」などにバリアフリーの視点を盛り込むように訴える「みちのくTRY」の準備が柱となり、8月19～31日の本番では、避難の妨げになる段差の確認や避難訓練などを行いながら、毎日30～40人が行進しました＝写真。



■寄付金の贈呈

東日本大震災の救援募金（現在受け付けている当事業団の震災救援事業への寄付を含む）のご寄付は約9万件、36億4000万円にのぼっています（13年9月現在）。このうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、使途についてのご意思が確認できない分については、お預かりしたお金として、24億6691万9348円を以下のように配りました。

- ①宮城、岩手、福島各県2億円の計6億円
 - ②震災孤児・遺児のための指定で宮城県2億5千万円、岩手県2億円、福島県5千万円の計5億円
 - ③日本赤十字社4億6741万9348円
 - ④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会1億円の計4億円
 - ⑤福祉施設・団体などへの助成金として宮城、岩手、福島の各県共同募金会に1億円の計3億円
 - ⑥災害ボランティアセンター運営費として市区町村の社会福祉協議会70団体に計1億9千万円
 - ⑦福祉施設に放射線量測定器250台を配るため福島県社会福祉協議会に1250万円
- （写真は朝日新聞社と共催の東日本大震災救援チャリティー報道写真展＝13年3月、東京・有楽町朝日ギャラリー）



子どもの福祉

●児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生に、大学、短大、専門学校への入学時の入学金、施設設備費と支度金(上限合計100万円)を贈るものです。2008年の事業団創立80周年を記念して始まった事業で、12年度までの5年間で106人を贈呈、13年度は26人が内定しました。

●社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちのグループと事業団が10年に結成し、活動は4年目に。13年9月に富士山麓の静岡県立朝霧野外活動センターで「ピア・キャンプ」(1泊2日)を実施、児童養護施設などで暮らす高校生とグループのスタッフら約30人が参加しました=写真。6月にはグリーンフェアに米国で取り組むシンシア・ホホワイトさん、伊藤ヒロさんを講師に、社会的養護の子どもの喪失に向き合うための研修会も行いました。



●「子どもシェルター」の講演会

家庭の中で虐待を受け、孤立し、傷ついている10代後半の子どものための避難場所が「子どもシェルター」です。シェルターを必要とする現状を知ってもらい、開設の動きを進めるための講演会を各地の弁護士や社会福祉関係者らとともに企画、12年12月に高知市、13年3月に札幌、和歌山の各市で開催しました。14年には千葉、新潟の各市で予定しています。

●朝日夏季保育大学

長野県諏訪市で毎夏、開催しています。13年7月26、27日の第60回記念朝日夏季保育大学では、落合恵子(作家)、汐見稔幸(白梅学園大学学長)、網野武博(武蔵野大学客員教授)、長谷川義史(絵本作家)、おおたか静流(歌手)、大友剛(音楽家・マジシャン)、藤岡宏(児童精神科医)、湯浅誠(社会運動家)のみなさんを講師に、保育士ら約450人が学びました。



●親子で楽しむクリスマスコンサート

12年12月23日に東京・有楽町朝日ホールで、シンガー・ソング絵本ライターの中川ひろたかさん率いる「モダンギャグカルテット」(岡淳、大友剛、俵山昌之、江藤良人のみなさん)がジャズを中心に演奏=写真。家族連れら530人が楽しみました。13年度も12月23日に有楽町朝日ホールで開催します。



高齢者の福祉

●高齢者訪問プログラム「ゆうゆうビジット」

高齢者向け施設の入居者や利用者と、一流の音楽家らとの交流を図る企画です。プログラムは、千住真理子さんと川島成道さん＝写真①＝のバイオリンコンサート、福田進一さんのギターコンサート＝同②、おおたか静流さんと大友剛さんによるコンサート、日色ともゑさん（朗読）とマリオネットのコンサート＝同③、高砂部屋の力士との交流。2010年2月から13年9月までに全国56カ所で開催しました。



●連続講演会「人生の終い方」「住まいの終活」

2012年度の「人生の終（しま）い方～親の介護と自分の老後」（東京、大阪各3回、写真）に続いて、13年度は「住まいの終活」をテーマに東京と大阪で各3回、開催。講師は高齢者住宅情報センター大阪の米澤なな子・センター長と田中由利子・相談室長、杉原優子・京都府介護福祉士会会長、秋山正子・白十字訪問看護ステーション統括所長、松本京子・ホームホスピス「神戸なごみの家」代表ら。14年2月16日には東京・大手町の日経ホールで、社会学者の上野千鶴子さんの講演「おひとりさまの住まいの終活」と、近山恵子・コミュニティネットワーク協会理事長との対談「新しい住まいのカたち」を実施します。



●認知症などの講演会

12年度は松本診療所（ものわずれクリニック）院長の松本一生さんが「家族が認知症になったら」をテーマに東京、大阪、名古屋、福岡で講演しました。13年度は講演会「ひとり暮らしの認知症」を9月に大阪で、14年2月1日に東京・浜離宮朝日ホールで開催。講師は杉山孝博・川崎幸クリニック院長とノンフィクションライターの中澤まゆみさん。

また、「成田きんさんの健康長寿の秘訣を学ぶ」セミナーを13年6月に名古屋市の朝日ホールで開きました。

●高齢者暴力防止プロジェクト助成

だれもが心豊かに安心して老後を暮らせる社会をめざし、高齢者への暴力・虐待を防ぐ取り組みをしている団体を支援する事業です。13年度は岩手県陸前高田市の「認知症にやさしい地域支援の会」＝写真＝など13団体に1009万円を贈呈。助成はこれまでの3回で35団体計約3000万円になりました。今回で終了します。



障害のある人の福祉

●自閉症カンファレンスNIPPON

国内最大の自閉症支援の会議です。2013年度の12回目は8月24、25日に東京・早稲田大学で1200人が参加して開催＝写真①。TEACCH(ティーチ)プログラムの第一人者、米国ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授＝同②＝や佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授＝同③＝らが、自閉症支援の基本と最新の情報などを語りました。またメジボフ教授の講演会「自閉症を正しく理解すること」を8月末から9月にかけて鹿児島、山形、宇都宮の各市で開き、計1050人が参加しました。



●DVD「自閉症の人が求める支援」

朝日福祉ガイドDVD「親と教師のための自閉症の人が求める支援」(全3巻)を制作、13年秋から頒布を始めました。自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した、画期的なDVDです。監修は佐々木教授とメジボフ教授。各巻4300円。3巻セット1万2000円、14年3月末までは特別価格9900円(10ページに案内)。



●高次脳機能障害の講演会

交通事故や病気などの後遺症で生活上の困難を抱え、「見えない障害」とも言われる高次脳機能障害の人を支援する講演会を続けています。12年度は仙台、浦添(沖縄)、静岡、広島の各市で開き、計780人が参加しました。13年度は「当事者が伝えたいこと」をテーマに、国立成育医療研究センター・発達評価センター長の橋本圭司さんを講師に7月に盛岡市で、11月16日に豊橋市総合福祉センターで開催。

●ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」

朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」を13年春に作りました。高次脳機能障害の発症から診断、退院、リハビリ、社会参加まで、その人の人生に関わることを網羅し、豊富な事例も交えて解説しています。監修は橋本圭司さん。B5判88ページ、定価1200円。(10ページに案内)



●JC-NET(ジョブコーチ・ネットワーク)会議

障害のある人たちの就労の橋渡し役のジョブコーチをテーマに、NPO法人JC-NETと共催して毎年3月に2日間、東京・大妻女子大多摩キャンパスで開いています。13年3月には約400人が参加、「障害者雇用率2.0%時代」の就労支援のあり方などについて語り合いました。次回開催は14年3月8、9日。

●全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

手話の普及と福祉教育の推進のため、毎年8月に実施しており、「手話の甲子園」として定着しています。13年8月31日には東京・第一生命ホールで第30回コンテストが開かれ＝写真上、30年の歩みを紹介したパネルも展示されました。第1位には静岡県立沼津西高校生の山内菜帆さんが輝きました＝写真下。



●聖明・朝日盲大学生奨学金

視覚障害のある学生を対象とした国内初の奨学金制度として聖明福祉協会との共催で1969年に創設され、月額3万円を貸与しています。総貸与者は13年度の45期生で198人になりました。歴代貸与者は弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、様々な場で活躍しています。

●車いすバスケットボール

朝日九州車いすバスケットボール選手権の第33回大会を12年11月に大分県の別府アリーナで、第34回大会を13年12月7、8日に長崎県立総合体育館で開催。また、九州車いすツインバスケットボール選手権の第24回大会を12年11月に福岡市のアクシオン福岡で＝写真、第25回大会を13年9月21、22日に長崎県大村市のシーハットおおむらで開きました(※ツインバスケットボールは上肢にも障害がある人も楽しめるように、高低2つずつ計4つのゴールを設置)。



●障害者歩くスキーの集い

歩くスキーを障害のある人もない人も一緒に楽しむ催しで、札幌の滝野すすらん丘陵公園で毎冬、開いています。第33回の集い(13年1月20日)には約170人が雪の降るなか、思い思いのペースでスキーを操りました＝写真。第34回は14年1月に開催します。



福祉啓発・公衆衛生ほか

●うつ病についての講演会

講演会「うつ病の予防と早期発見～深い喪失への支援を被災地に学ぶ～」を2013年6月にエルパーク仙台と東京・浜離宮朝日ホールで開催、国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の**大野裕さん**＝写真、宮城県女川町の保健師・**佐藤由理さん**、みやぎ心のケアセンター副センター長の**松本和紀さん**が、女川町での取り組みを例に、地域が支える精神保健のあり方を探りました。

また「みんなでうつを考えよう」をテーマにした講演会を12年9月に大阪市立中央区民センターと東京・浜離宮朝日ホールで大野さんと精神保健福祉士の**石井雅也さん**を講師に、13年6月には大阪YMCA国際文化センターで大野さんと精神保健福祉士の**佐藤恵美さん**を講師に開きました。



●朝日福祉ガイドブック「みんなのうつ」

うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書を作りました＝写真。①うつ病って何？②うつ病を理解しよう③うつ病の治療④うつ病とともに、の4章。喪失体験をキーワードに発病のきっかけを説明し、治療法や対処法などを解説、うつ病とともにどう生活していくか、例もあげました。監修は大野裕さん。定価1000円(10ページに案内)。

●公開講座「自殺!? ちょっと待って！」

福岡いのちの電話との共催で毎秋、福岡市で開催しており、12年度は作家で僧侶の家田莊子さんの講演「この世に生まれ、生きて、生かされて…」と、精神科医の川崎弘詔さん、臨床心理学者の林幹男さんとの鼎(てい)談＝写真＝を実施しました。13年度は11月9日に都久志会館で、作家の雨宮処凛(かりん)さんが「若者の生きづらさを考える」について、朝日新聞記者のインタビューに応える形式で講演。



●アサヒベビー相談室

都会の中で育児に悩む母親たちのための数少ない民間の無料相談室です。1957年開設の近鉄百貨店阿倍野店(大阪)をはじめ、西武百貨店高槻店、西武百貨店大津店で実施しており、12年度の利用者は計約2300人でした。

●遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」

遺言の書き方、遺贈の仕組みや寄付の方法などを、弁護士がわかりやすく解説するセミナーを開催しています。13年度は6～7月に東京、大阪、名古屋で中山二基子さん＝写真＝を講師に、10月1日には福岡市で石井将さんを講師に開きました。



チャリティー事業

●朝日チャリティー美術展・演奏会・茶会…

2012年度は朝日チャリティー美術展を名古屋、大阪＝写真①、東京で開催、画家、書家、各界著名人ら約2800人の方々から約3800点の作品をご寄贈いただきました。また、東京でメサイア演奏会＝同③、大阪で各派合同三曲演奏会＝同②、協賛能、各流合同茶会を、兵庫県尼崎市で洋舞合同祭＝同④、名古屋で歳末朝日チャリティー茶会＝同⑤＝を実施しました。このほか、チャリティー大茶会（茶道裏千家淡交会北九州支部主催）や杵勝会歳末長唄演奏会、上野学園慈善演奏会、彩季会バザーなど、多数の催しが行われ、ご寄付が当事業団の社会福祉事業に充てられています。



2013年11月～14年3月までの主なチャリティー催事

- | | | |
|------------|--------|---|
| 11月 | 24日 | 第55回各派合同三曲演奏会(大阪・フェスティバルホール) |
| 12月 | 5～7日 | 第60回朝日チャリティー美術展名古屋展(丸栄百貨店) |
| | 8日 | 第59回歳末朝日チャリティー茶会(名古屋美術倶楽部) |
| | 20日 | 第63回芸大メサイア演奏会(東京文化会館) |
| | 21～23日 | 第87回朝日チャリティー美術展大阪展(なんば高島屋) |
| | 23日 | 「歳末助け合い」協賛能(大阪・大槻能楽堂) |
| | 25～27日 | 第61回洋舞合同祭(大阪・フェスティバルホール) |
| 3月 | 1～2日 | 第60回各流合同茶会(大阪美術倶楽部) |
| | 7～10日 | 第89回朝日チャリティー美術展東京展、
第4回Next Art展(松屋銀座) |

朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドブック 【梱包送料】1冊180円、2～3冊250円、4～5冊300円(6冊以上はお問い合わせください)

『みんなのうつ』 (1,000円)	うつ病の「分かりにくさ」を整理した入門書。大野裕さん監修。自分や家族、周りの人が「うつ病かな」と思った時に開いてください
『認知症とともに』 (1,000円)	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでをイラスト入りで分かりやすく解説
『なるほど高次脳機能障害』 (1,200円)	「見えない障害」と言われる高次脳機能障害の診断、退院、リハビリ、社会参加などを網羅し、多数の事例を交えて解説
『精神障害者のホームヘルプサービス』 (800円)	精神障害のある人が自分の好きな街で暮らすため、当事者の立場にたった支援ができるように、関係者の体験談や豊富な事例で解説
『自閉症の人たちを支援するということ』 (800円)	TEACCHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説
『自閉症のひとたちへの援助システム』 (500円)	TEACCHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案
『100%あたらくん』 (600円)	自閉症のあたらくんが大活躍の4コママンガ。自閉症の理解に役立ちます

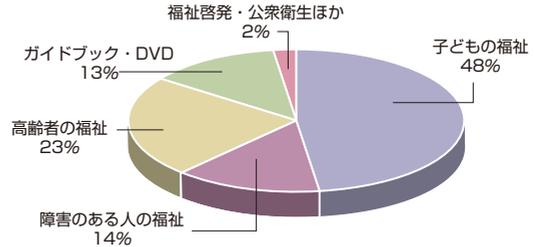
◆朝日福祉ガイドDVD 【梱包送料】7巻まで500円(8巻以上はお問い合わせください)

『親と教師のための自閉症の人が求める支援』 全3巻セット価格12,000円(14年3月末まで9,900円) 各巻4,300円	『親と教師のための自閉症の子どもの評価 生活スキル編』 全4巻セット価格18,000円 各巻4,800円
自閉症の人が自閉症のまま、学び、発達し、健康に幸福に生きていくための、それぞれの個性に合わせた支援のあり方を映像化。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。	自閉症の人を正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。
『自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する』 全3巻セット価格10,500円 各巻4,300円	自閉症児の治療教育シリーズ (米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラム) 各巻3,000円
自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)、第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)、第3巻「13人のエピソード」(85分)。	『自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方』(49分)、『親のためのTEACCHプログラム』(67分)、『教師のためのTEACCHプログラム』(69分)、『青年期・成人期のTEACCHプログラム』(55分)。
『自閉症の子どもの自立課題』 全3巻セット価格13,500円 各巻4,800円	お申し込み・お問い合わせ
「自分ではできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。	ご希望の方は電話がファクス、電子メールで下記までお申し込みください(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)。
	朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 tel: 03-5540-7446 fax: 03-5565-1643 e-mail: guide@asahi-welfare.or.jp ホームページ(http://www.asahi-welfare.or.jp/)からもお申し込みができます。

ご寄付について

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。事業を指定した寄付も歓迎します。個人、法人ともに税法上の優遇措置があり、寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。匿名扱い可)。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め、同事業団へお問い合わせください。

皆様からのご寄付は以下のような事業に使われます (2013年度事業活動予算、東日本大震災救援事業を含む)



主な寄付方法

- 郵便振替** 00130・1・9166 加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団(通信欄に「寄付」と明記。領収書不要の場合も付記を)。事業団が振込料金を負担する振替用紙をご請求ください。
- 銀行振り込み** 「三井住友銀行新橋支店 普通 303668」(銀行振り込みの場合は事業団へ電話連絡をお願いします)
- 現金受付** 朝日新聞本社内の事業団窓口(平日午前10時～午後6時)、朝日新聞総局など
- インターネット** 事業団ホームページから電子マネー「ちょコム」募金

寄付金控除

個人の場合

事業団へのご寄付は次のような寄付金控除を受けることができます。所得控除と税額控除の二つの寄付金控除方式のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。寄付金の合計額(年間所得の40%が上限)から2千円を差し引いた金額が、寄付者の年間所得から控除されます。

- **所得控除**
- **税額控除**

寄付金の合計額(年間所得の40%が上限)から2千円を差し引いた金額の40%(所得税額の25%が上限)が、寄付者の年間所得税額から控除されます。

法人の場合

当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。

相続税について の優遇措置

相続により取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、ご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しています。

小冊子
「遺贈」

遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをまとめた小冊子「遺贈」(A5判、20ページ)を、ご希望の方に無料でお送りします。各事務所に電話、ファックスでお気軽にご請求ください。

ご寄付や事業についてのお問い合わせは

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

■大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

※ご寄付で朝日新聞厚生文化事業団が手数料を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。

【口座番号「00130-1-9166」】

※銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

【三井住友銀行新橋支店 普通「303668」】

※ご寄付は各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

「朝日の社会福祉 2012-2013年度の活動」

2013年10月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団